

侍従川讃歌プロジェクトについて

「侍従川讃歌」という短い詩に曲が付きまして。ふるさとの懐かしい風景を詠い上げた詩と美しいメロディーで、とても感じの良い楽曲になっています。たくさん子どもたちや地域のみなさまに歌っていただき、歌を通して郷土の歴史や自然に関心を持っていただけたら良いなと思っています。YOUTUBEで公開していますので、「侍従川讃歌プロジェクト」で検索するか、QRコードにアクセスしてお聴きください。（作詞：廣瀬一雄 補修：廣瀬隆夫 作曲：高橋揚一 伴奏：柴田悦子 歌：松永知史（ちふみ） プロデュース：高橋克己）

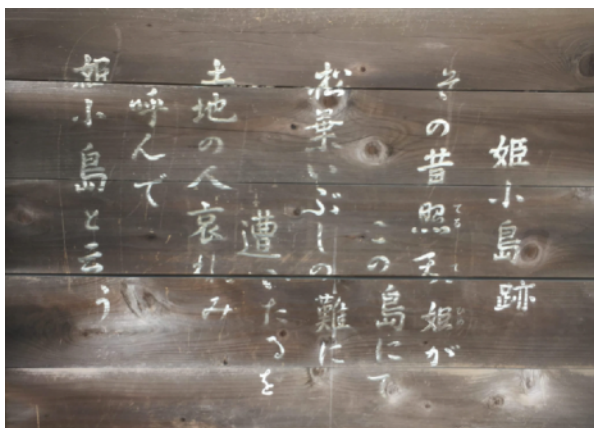


<https://kiongaoka.sakura.ne.jp/blog/2023/12/27/jjyuproject/>

1. 緑深き朝比奈の こけむす谷間若水に わき出る清き流れあり 名にしおう若水川
若水川から侍従川 流れ流れて杉の先 大道耕地を見渡せば 大堰近く水ぬるむ
2. 大水の谷戸を右に見て 川間流れ明堂橋 諏訪の橋から侍従橋 並木観音おわします
高橋過ぎて三艘へ あし原抜け高谷の里 内川橋を越えたなら 夕日にはえる平潟湾
侍従とうとうと流れ 歴史を刻むふるさとは 照手の夢を語り継ぐ 永遠の流れよ

■ 侍従川とは

侍従川は、金沢区の朝比奈峠を源流として大道を縦断して平潟湾に注ぐ4キロ足らずの小さな川です。昔は田んぼの稲を育てるための農業用水やモノを洗う生活用水に使われていました。侍従川の歴史は古く、「小栗判官と照手姫」という歌舞伎や浄瑠璃として演じられている六百年も前から伝わる照手姫伝説が残っています。侍従という名の照手姫の乳母にちなんで侍従川と呼ばれるようになったと言われています。



照手姫伝説の姫小島の跡（金沢八景）



■ 侍従川に生き物を呼び戻す活動

侍従川は、昭和初期までは、ホタルが棲むキレイな川でしたが、団地の開発が進んで人口が増えた高度成長期には生き物が全く棲めない悪臭が漂うドブ川になってしまいました。数十年前に、この中流域で、川の自然を自分たちの手で再生し生き物を呼び戻そうという試みが行われました。近隣の小学生や有志の方の地道な活動で岸辺がアシやマコモなどの緑で覆われ生き物たちが戻ってきました。今では、カルガモ、カワセミ、ハグロトンボ、ハゼ、ウナギ、アユなど数十種類の生き物を見ることができます。源流付近では、昔のようにホタルの乱舞を見ることができます。

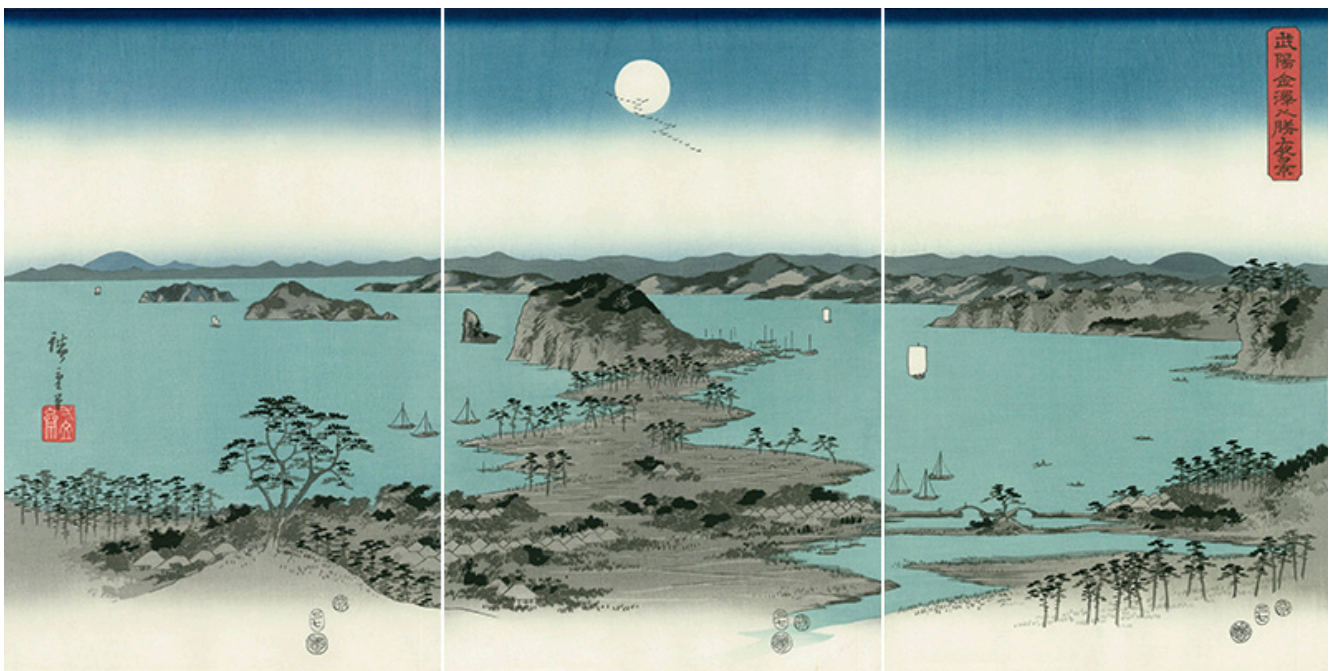


毎月行われている侍従川清掃



■ 鎌倉時代から流れる侍従川

金沢や六浦の周辺は深い入江になっていて風景の美しい場所でした。中国の瀟湘(しょうしょう)八景に見立てて金沢八景と呼ばれるようになりました。侍従川は、この時代から絶えることなくずっと流れ続けています。これからも侍従川の自然や景観を大切にしていきたいと思います。



歌川広重「武陽金沢八景夜景」